



『御殿まりの国際交流』

昭和36年の「秋田まごころ国体」の記念品として、県外の選手お世に役員から好評を博した「本荘ごてんまり」は、県内でも秋田を代表する民芸品として広く知られるようになりました。

昭和38年の東京国際見本市で輸出の商談がまとまり、昭和39年3月には当時的大館市長・佐藤敬治氏の仲介により、ニューヨークやパリなどにも紹介され、初めて「本荘ごてんまり」が航空便で直送されました。

以来、旧本荘市と現在の由利本荘市が行っている韓国・中国・ハンガリー共和国との友好協定に基づく訪問でもごてんまりをお土産として持参しています。「本荘ごてんまり」は日本を代表する民芸品として大変喜ばれ、国際交流にも大変役立っています。

本荘市（合併後・由利本荘市）ではごてんまりの普及と製作技術の向上を目指し、昭和45年(1970)からごてんまり、手まりの全国大会を行っています。

ごてんまりのような工芸品を正式に全国大会と銘打つには中小企業局の認可が必要で、（グランプリは中小企業局長官賞）これは一品目一カ所しか認可されていませんので、ごてんまりの全国大会は由利本荘市が唯一の開催地として、平成22年には41回を数えるイベントになりました。毎年秋に行われる大会には全国各地から400個を超えるごてんまり、手まりが出品され、優秀作品は市で買い上げ、歴史資料館に保存展示されますので、由利本荘市には手まりの「目利き人」や腕利きの制作者がぎわめて多く、一般家庭の床の間や玄関に御殿まりが飾られていても誰も不思議に思わない地域です。



